

# スクーバダイビング前後の自然認識の変化について ～座間味レクリエーションダイバーを対象として～

井関 湧大 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)  
指導教員 林 綾子

キーワード：スクーバダイビング，自然認識，レクリエーションダイバー

## 1. 序論

近年，地球温暖化や森林伐採，異常気象などの自然環境についてのニュースが連日にわたり報道されている。漆原(1999)は，日本は海洋国家であるが，残念ながら我が国においては海洋環境に対する認識や関心はあまり高くはないというのが現状であると述べている。蓬郷(2008)は，環境問題について考える機会として，体験実習型の授業が大学教育において重要視されてきていると述べている。スクーバダイビングがその一例であり，海の中で水中世界を体験することで海洋環境問題を身近に考えるきっかけになると述べている。

筆者はインターン実習で沖縄の離島で生活した。実際に海に潜り，海底に群生しているサンゴやたくさんの水中生物を目撃してとても綺麗だと感じた。しかし，海底に落ちているゴミや人為的に破壊されているサンゴを目撃し，この綺麗な自然をこの先もずっと残していきたいと考えた。その経験から，レクリエーションとしてのダイビングにも，直接的に自然を感じ，水中での生き物の暮らし，海の広大さを実際に目撃することで，環境や自然を身近に捉え，自然認識や理解を深めるきっかけになるのではないかと考えた。

そこで本研究では，レクリエーションダイバーの自然認識の変化について明らかにすること，および自然認識と過去のダイビング経験との関連，自然認識と性別との関連，自然認識とこれまでの自然体験との関連，について明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究方法

【調査対象】平成27年8月5日～9月3日の期間に沖縄県島尻郡座間味村内のマリンショップに訪れた，レクリエーションダイバー計120名(男性72名 女性48名)を対象とした。

【調査方法】自然認識尺度(永木,1994)から19項目と筆者が独自に追加した4項目の計23項目で構成されたアンケート用紙を作成し，ダイビング前後の計2回に調査した。

## 3. 結果と考察

レクリエーションダイバーのダイビング前後で自然認識合計得点(表1)は有意に向上していた。また，項目別でも全項目得点において前後で向上した要因として，直接的な自然体験により自然を身近に捉え，自然に対する意識，理解が深まったことが考えられる。また，質問項目にある「川・海・湖などの透き通った水を見て感動したことがある」，「川・海・湖などの水の色の変化に感動したことがある」のような海に関する質問項目から，沖縄特有の綺麗な海が自然認識の向上に影響したのではないかと考えられる。

表1. 自然認識合計得点の平均値,標準偏差

Pre	Post	t 値
74.93(4.60)	82.08(2.81)	-21.48 ***

N=120

\*\*\* $p<.001$

自然認識と過去のダイビング経験については，ダイビング前( $t(119)=.61$  n.s.)とダイビング後( $t(119)=.57$  n.s.)ともに，有意な差を見ることができなかった。

自然認識と性別についてもダイビング前( $t(119)=-.33$  n.s.)とダイビング後( $t(119)=-.16$  n.s.)ともに，有意な差を見ることができなかった。本研究のダイビングは，非日常的な体験だったため性別に有意な差が見られなかったと考えられる。

これまでの自然体験と自然認識の関連を見るために Pearson の相関係数を求めた。その結果，自然認識とこれまでの自然体験には，ダイビング前( $r=.141$ , n.s.)とダイビング後( $r=.024$ , n.s.)ともに，有意な正の相関はなかった。

## 4. まとめ

レクリエーションダイバーの自然認識はダイビング前後で有意に向上していた。このことから，レクリエーションとしてのダイビングを体験することで，ダイバーの自然に対する認識の向上，環境に配慮したダイビングスキルを習得し，ダイビングポイントの保全活動に繋がると考えられる。

自然認識と過去のダイビング経験には有意な差をみることができなかった。今後，自然認識と過去のダイビング経験の関連を明らかにするために，ダイビング歴やライセンスの所持など詳しく分類して調査する必要がある。

自然認識と性別には有意な差を見ることができなかった。本研究の対象としたダイビングは，2時間程度のダイビングであり，個人によってもダイビングの経験時間にも差があったことが自然認識を変化させる程ではなかったことが考えられる。

自然認識とこれまでの自然体験には，有意な差を見ることができなかった。今後はこれまでの自然体験の質問項目をより具体的にすることが必要である。

## <引用文献>

- 1) 永木耕介・高田俊也・千駄忠至(1994)野外活動における自然認識についての因子分析的研究. 兵庫教育大学実技教育研究, 9:89-96.
- 2) 蓬郷尚代(2008)スクーバ・ダイビングにおける環境教育プログラムが受講生に及ぼす効果. 上智大学体育学会, 41:1-10.
- 3) 漆原光徳 (1999) マリンスポーツ (スキューバダイビング) と環境問題. 日本体育学会, 50: 115.